平成２２年度　岡山県立倉敷琴浦高等支援学校　学校評価書

校長　　小田　眞弓

1　自己評価

Ⅰ　評価結果（別紙参照）

Ⅱ　分析・改善方策

①　安心・安全な学校生活の保障の目標は達成した。来年度は１学年増え、生徒数が倍となることから、通学時における通学経路、バス停、駅などでの状況の把握を随時行い、危険やトラブルの未然防止に取り組む。お互いを認め合い、安心して学習に取り組める集団づくりでは、今年度後期から組織した生徒会活動の充実や学校行事を通して、生徒相互が協力して取り組む活動機会を増やす。また、保護者に対し、参観日や個人懇談の日程を年度当初に知らせることで、保護者が見通しをもって参加できるようにする。

②　発達障害に関する専門性の向上にかかわり、職員研修でほぼ計画した内容で実施したが、教職員でマイナスの評価の割合が高かった。発達障害のある生徒を含め、すべての生徒へのより適切な指導・支援を目指すため、個別移行支援計画、個別の指導計画の作成・活用をテーマとした研修を計画・実施することにより、教職員の共通理解と各自の専門性の向上を図る。また、授業改善を図るため、内部だけでなく、広く外部の方に参観を呼びかけて、公開授業研究会を実施することで、本校における授業の取り組みを見直す。

③　職業教育の基盤作りについて、今年度の計画は概ね達成したが、施設・設備面で指導できない専門教科の内容があった。今年度末には、実習にかかわる施設・設備が整ったので、来年度は指導できなかった内容にも力点を置いて指導していく。また、社会人講師の活用が大幅に遅れ、回数も少なかった。社会人講師とのつながりができたので、来年度は、前期から計画的に活用する。

2　学校関係者評価委員名

大島美栄子（倉敷障がい者就業・生活支援センター　所長）
片沼　靖一（琴東地区社会教育コミュニティ推進協議会　会長）
森本　　潔（児島商工会議所中小企業相談所　所長）
山本　真悟（児島ハローワーク　統括職業指導官）
塚越　智美（本校 PTA　会長）

3　学校関係者評価

○　生徒・保護者と就労にかかわる面談を行ったときに、「この学校に来てよかったですか」とたずねると、保護者から「（子どもが）安心して来られるようになった」という評価の言葉を多く聞いた。保護者が学校に対してプラスの評価をしていることは納得できる。その一方、教職員に教育目標や方針の共通理解についてのマイナスの評価が多いのは残念で、今後の改善を期待したい。
○　教職員は、それぞれ目標を高くもち、自己評価は厳しくなるのは当然と思う。現場実習の依頼などで、担当者が熱心に事業所などを回り、働きかけもよくしていることを知っている。そのことが、保護者にももっと分かるようにするとよいかもしれない。
○　企業の方は、学校でどんなことに取り組んでいるのか見る機会があれば行きたいとよく言われる。公開授業研究会で就労に関係する授業などをするのであれば、支援機関や企業の方に参加を呼びかければよいと思う。
○　進路支援に当たって、進路指導担当者などは就労支援機関とよく連携をとっているが、具体的な進路を検討する際には、直接生徒を指導し、家庭のことも分かっている担任と連携をとるようにできたら、より適切な支援が得やすい。卒業のときではなく、早くから支援機関と連携するような機会があってよい。
○　年間行事予定を年度当初に保護者に知らせることは、保護者にとって助かり、学校行事への参加や協力もしやすくなる。

4　来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

・日々の授業、学校生活、就労支援のさらなる充実を図る。
・関係機関及び職員間の連携を強化する。
・本校の取り組みを各方面にしっかりアピールしていく。